

『わにわにのおふろ』

小風 さち/文・山口 マオ/絵 福音館書店



わにわにはお風呂が大好きです。蛇口をひねってしゃばしゃばお湯をため、おもちゃをぼくぼく浮かべて遊んだり、歌を歌ったり…。見た目はちょっとこわそうだけど、やることはとってもかわいい。わにわにのひとつひとつの行動に、思わずクスッと笑ってしまいます。



【3～6歳向き】

このリストは、平成21年発行の「よもよもえほんの芽」冊子版を利用しやすく一枚にまとめたものです。

【他にもこんな本があります】

- 『うちのママってすてきな』 アンソニー・ブラウン/作 久山 太市/訳 評論社
- 『おちやのじかんにきたとら』 ジュディス・カー/作 晴海 耕平/訳 童話館
- 『かぼちゃひこうせんぷくらこ』 レンナート・ヘルシング/文 スベン・オッター/絵 奥田 継夫 木村 由利子/訳 アリス館
- 『ガラスめだまときんのつののヤギ』 スズキ コージ/画 田中 かな子/訳 福音館書店
- 『くまのコールテンくん』 ドン=フリーマン/作 まつおか きょうこ/訳 偕成社
- 『ごきげんならいおん』 ルイズ・ファティオ/文 ロジャー・デュボアザン/絵 むらおか はなこ/訳 福音館書店
- 『こんこんさまにさしあげそうろう』 森 はな/作 梶山 俊夫/絵 PHP研究所
- 『しずくのぼうけん』 マリア・テルリコフスカ/作 ポフダン・ブテンコ/絵 うちだ りさこ/訳 福音館書店

『アンガスとあひる』

マージョリー・フラック/作・絵 瀬田 貞二/訳 福音館書店



アンガスはとても知りたがりやの子犬です。生垣の向こうから聞こえるあの音は何でしょう。ある日、アンガスは音の正体を知りたくなって家を飛び出しました。アンガスが生垣の下にもぐりこむと…。

『おふろだいすき』

松岡 享子/作・林 明子/絵 福音館書店



お風呂好きの男の子は、いつもあひるのプッカを連れて入ります。いつものように体を洗っていると、お湯の中や白い湯気の中から、カメやペンギンなどが次々に現れます。

『かにむかし』

木下 順二/作・清水 崑/絵 岩波書店



昔、柿の種を拾ったカニが種をまき育てました。ところが、カニのかわりに柿をもいだサルに、青い実を投げつけられ、カニは死んでしまいました。その時、カニのおなかから出てきた子どもたちは…。

『からすのパンやさん』

かこ さとし/絵・文 偕成社



からすのパンやさんのうちに、4羽の赤ちゃんが生まれました。パンやさんは赤ちゃんのお世話にお店にと大わらわ。ある日、4羽がおやつに食べていたパンが友達の間で評判となり、いろんな形のパンを作ってみることになりました。たくさんのパンを見ていたら、こちらもお腹がすいてきそうです。

『つきのぼうや』 イブ・スパンク・オルセン/作・絵 やまのうち きよこ/訳 福音館書店

『ティッチ』 パット・ハッチンス/作・絵 石井 桃子/訳 福音館書店

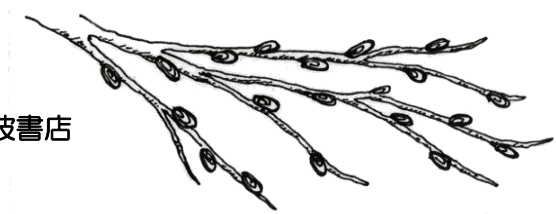
『でこちゃん』 つちだ のぶこ/作・絵 PHP研究所

『ひとまねこざる』 H. A. レイ/文・絵 光吉 夏弥/訳 岩波書店

『ゆかいなさんにんきょうだい 1 ～きえたおかしのみき～』 たかどの ほうこ/作・絵 アリス館

『よじはんよじはん』 ユン・ソクチュン/文 イ・ヨンギョン/絵 かみや にじ/訳 福音館書店

『ラチとらいおん』 マレーク・ベロニカ/文・絵 とくなが やすもと/訳 福音館書店



イラスト：大西 万実
平成25年4月 丹波市立図書館/発行

『ざっくん！ショベルカー』

竹下 文子／作・鈴木 まもる／絵 偕成社

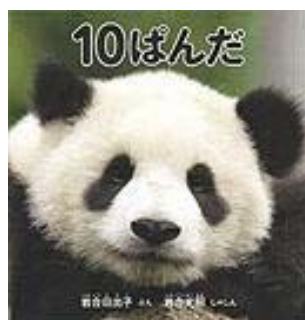
お兄さんのショベルカーが、ざっくんざっくん穴を掘ります。小さい1号、少し大きい2号、ぐーんと大きな3号。ショベルのところの部品を取り替えると、いろいろな仕事ができるのです。町で、山で、川で、ショベルカーは大活躍。



『10ぱんだ』

岩合 日出子／文・岩合 光昭／写真 福音館書店

らくらく木登り1パンダ、野原でのんびり2パンダ。めくっていくたびにパンダがふえて、最後はかわいい赤ちゃんパンダが10匹せいぞろい。思わずさわってみたくくなります。



『14ひきのひっこし』

いわむら かずお／作 童心社

お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、そして兄弟10匹。僕らはみんなで14匹家族。ねずみの大家族が新しいすみかを探して、森の奥を目指して出発します。かけを登って、川を渡って、一晩外で過ごして、やっと見つけたすてきな根っこ。ここを新しいうちにしよう！



『せんたくかあちゃん』

さとう わきこ／作・絵 福音館書店

洗濯が大の大好きな母ちゃん。「今日もいい天気だねえ」と腕まくりをして、カーテン、洋服、シーツはもちろん、子どもや犬やソーセージまで、家中のものを洗って外に干しました。そこに、おへそを取りに来たかみなりさまが落ちてきて…。



『そらまめくんのベッド』

なかや みわ／作・絵 福音館書店

そらまめくんの宝物はふわふわのベッド。お友達がそのベッドで寝てみたいとお願いするのですが、だれにも貸そうとはしません。そんなある日、そらまめくんの大切なベッドがなくなってしまいました。



『ちょっとだけ』

瀧村 有子／作・鈴木 永子／絵 福音館書店

あかちゃんが生まれて、おねえちゃんになった“なっちゃん”。忙しいお母さんに心配をかけたくないなっちゃんは、いろんなことを自分でやろうとしてみます。



『はじめてのおつかい』

筒井 頼子／作・林 明子／絵 福音館書店

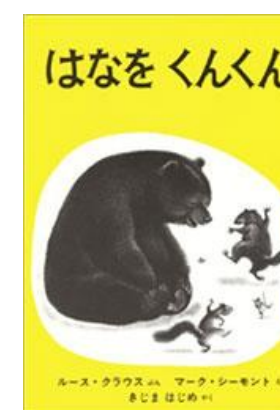
5つの女の子、みいちゃんがある日お母さんから「牛乳を買ってきて」と、おつかいを頼られます。ひとりで行くはじめてのおつかい。ドキドキがいっぱい待ちかまえています。



『はなをくんくん』

ルース・クラウス／文・マーク・シーモント／絵
きじま はじめ／訳 福音館書店

雪が降る森で眠っていた、ノネズミ、クマ、カタツムリ、リス、ヤマネズミ。突然みんなが目をさまして、鼻をくんくん。駆け出したみんながぴたり！と止まったところには…。



『ハンダのびっくりプレゼント』

アイリーン・ブラウン／作・福本 友美子／訳 光村教育図書

アフリカのケニアのお話。ハンダは友達のアケヨに、おいしそうな果物を7つ持っていきます。「アケヨは、どの果物が好きかしら」頭のかごに乗せて歩いていきますが、バナナ、グアバ、オレンジ…どの果物も動物たちの大好物。ひとつずつ持って行ってしまいます。



『わたしのワンピース』

にしまき かやこ／絵・文 こぐま社

お空からふわふわ落ちてきた白い布。うさぎさんは、その布を使ってワンピースを作ってみました。それを着てお花畑を歩いてみると、ワンピースはお花の模様に、雨が降ってくると水玉模様になっていきます。

